

豊橋市の温室効果ガス排出量について

1. 温室効果ガス排出量の推移

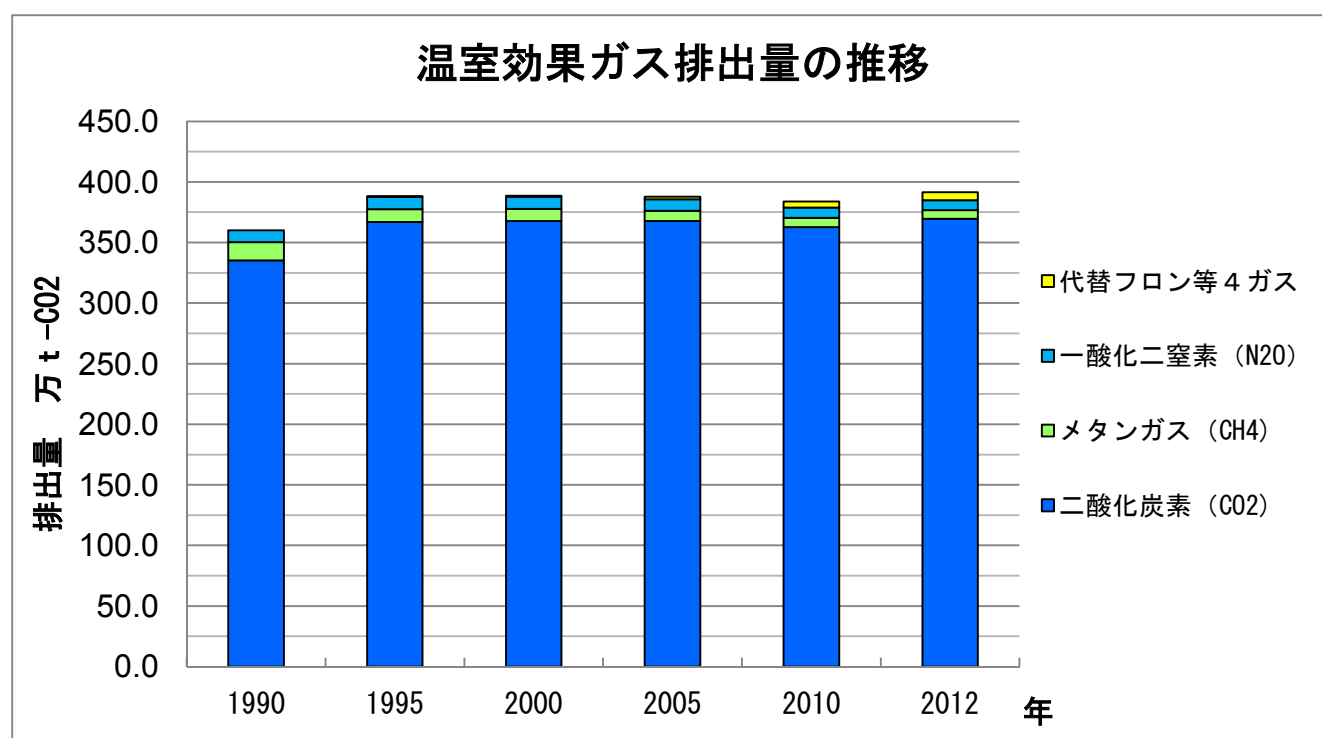
豊橋市域における温室効果ガスの排出量については以下のとおりとなっている。直近の平成 24 (2012) 年度で約 391 万トン-CO₂ となっており、基準年である平成 2 (1990) 年度と比較し約 8.7%増加している。また排出量のうち最も多いのは二酸化炭素となっており全体の約 94%を占めている。

表 1. 温室効果ガス排出量の推移 (排出量：万トン-CO₂)

	平成 2 年度 (1990 年度)	平成 7 年度 (1995 年度)	平成 12 年度 (2000 年度)	平成 17 年度 (2005 年度)	平成 22 年度 (2010 年度)	平成 24 年度 (2012 年度)	対基準年度 増減率(%)
二酸化炭素 (CO ₂)	335.3	366.8	367.8	367.6	362.7	369.5	10.2
メタン (CH ₄)	14.9	10.7	9.9	8.6	7.8	7.3	△51.0
一酸化二窒素 (N ₂ O)	9.8	10.3	10.1	9.4	8.4	8.1	△17.3
代替フロン等 4 ガス	0.0	0.2	0.8	2.2	5.0	6.5	32.5 倍※
計	360.0	388.0	388.6	387.8	383.9	391.4	8.7

※代替フロン等 4 ガスは平成 2 年度の排出量が 0.0 のため平成 7 年度比での増減率を示す。

図 1. 温室効果ガス排出量の推移



2. 部門別二酸化炭素排出量の推移

ここで、排出割合の最も大きい二酸化炭素排出量について、その内訳を部門別に見ると下表のとおりとなっている。排出量は産業部門が最も多く、続いて運輸、業務部門と続く。また基準年度からの増減率を見ると、家庭部門、業務部門が大幅に増加していることがわかる。

表 2. 部門別二酸化炭素排出量の推移

(排出量: 万トン-CO₂)

	平成 2 年度 (1990 年度)	平成 7 年度 (1995 年度)	平成 12 年度 (2000 年度)	平成 17 年度 (2005 年度)	平成 22 年度 (2010 年度)	平成 24 年度 (2012 年度)	対基準年度 増減率(%)
産業部門	120.6	121.1	110.5	117.1	123.5	123.3	2.2
家庭部門	20.8	22.8	22.1	27.8	29.3	30.2	45.2
業務部門	60.4	71.4	71.6	77.1	77.5	80.8	33.8
運輸部門	79.5	106.9	115.1	95.8	85.9	89.3	12.3
非エネルギー起 源CO ₂	54.0	44.6	48.5	49.8	46.5	45.9	△15.0
計	335.3	366.8	367.8	367.6	362.7	369.5	10.2

図 2. 部門別二酸化炭素排出量の推移

